

Structure Kansai No.159 2023.10

JSCA関西ホームページに会員皆様の意見、質問に答えるコーナーを開設しております。ご活用下さい。

イノゲート大阪

最大アスペクト比9を超える複合ビルの構造計画



大林組設計本部
構造設計部
藁科 誠

■建物概要

イノゲート大阪は2023年3月に開業した大阪駅西口に直結する位置に立地する複合ビルである。

建物規模は地上23階、地下1階、高さ約120m、延床面積約60,000㎡で、建物用途は上層にオフィス、低層3～5階に飲食店舗、地下から2階にかけて駅施設を含む接続通路で構成されている。

建物の地下には大阪駅のうめきた地下口と西口をつなぐ柵内連絡通路が貫通している。また、狭隘な敷地に営業中の鉄道線路および高架橋に近接しており、工事計画の難易度が高い敷地条件である。

建物の基本設計および監修はジェイアール西日本コンサルタンツ・東畑建築事務所設計共同体、実施設計は西日本旅客鉄道株式会社・株式会社大林組である。



図1 完成予想パース

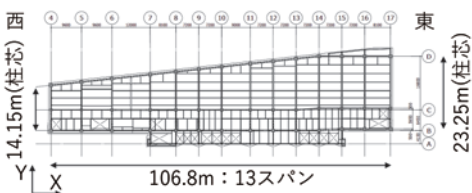


図2 基準階伏図

■構造計画

図3に架構パースを示す。構造種別は、地上はS造(一部CFT)、地下はSRC造(一部、S造)である。地上部の構造形式は両方向ともラーメン構造、構造形式は制震構造とし制震装置にはオイルダンパーおよびブレーキダンパーを採用した。ノンブラケットの梁端部には水平ハンチ「大林組保有技術ウィングビーム工法」を採用し、現場溶接部での塑性化を防止する計画としている。

基礎は杭基礎とし、場所打ち杭(一部、既製杭)を採用した。場所打ち杭については、中間および先端に拡張部を有する場所打ちコンクリート杭工法を採用している。

■構造設計上の工夫

①アスペクト比9を超える建物に対する工夫
建物高さと杭芯間距離から求めたアスペクト比は9.16(4通り)から5.38(17通り)である。(図4)

アスペクト比が大きい事から曲げ変形が卓越し、大きな変動軸力が生じることが想定された。

曲げ変形に対しては7階の中間機械室を利用しベルトトラスを設ける事で、曲げ変形を抑えた。また、制震装置をシアリンク型のオイルダンパーとする事でダンパー効率を高める計画とした。

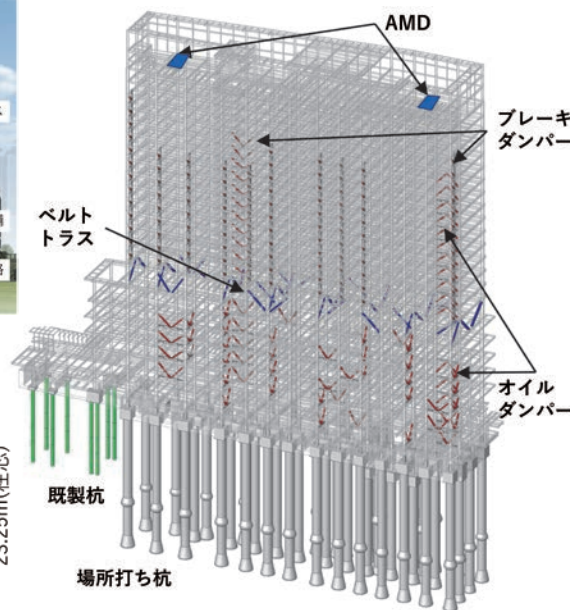


図3 架構パース

大きな変動軸力に対しては剛性と耐力を確保するため柱にCFTを採用している。変動軸力が最も大きくなる1階では鋼材に550N級鋼を、充填コンクリートにはFc60を採用した。

杭については引抜・押込み抵抗力を確保するため、拡張傾斜部の抵抗力を考慮できる、中間および先端に拡張部を有する場所打ちコンクリート杭を採用した。

②台形形状によるねじれに対する工夫

建物の平面形状(図2)は長方形の一部を切り欠いた細長い台形である。

X方向(横幅)は106.8m、Y方向(奥行)は14.15m～23.25m、辺長比は4.5～7.5である。

辺長比が大きい事からねじれ変形が大きくなる事が懸念された。この対策として、建物の低層階では東側に柱を追加し、平面的な剛性バランスを調整した。また、高層階ではY方向の梁剛性について東西で差をつける事で、剛心位置を東側に寄せ、剛心と重心のバランスを調整した。

ねじれ方向の固有周期が比較的長く特に風荷重時にねじれ方向の振動が加わることが想定されたので、建物頂部の東西に1基ずつ、合計2基のAMD(アクティブマスダンパー)を設け風揺れおよび地震時の後揺れ対策を行っている。

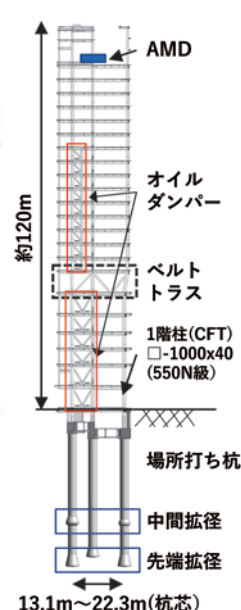


図4 軸組図

(仮称) 淀屋橋駅東プロジェクト (淀屋橋駅東地区都市再生事業) の構造設計
竹中工務店設計部構造部門 濱田 明俊
廣島 勇樹
前田 達彦



■建物概要

本建物は大阪のビジネスと交通の要所である御堂筋の玄関口に位置し、京阪電鉄およびOsaka Metro「淀屋橋」駅に直結する、オフィス・商業の複合施設である。「御堂筋デザインガイドライン」により、高さ約50mに基壇部を設け、御堂筋の統一感ある景観形成に配慮している(図1)。低層・中層・高層部にはビジネス活動の支援を目的とした3つの都市貢献スペースを有しており、複数層にまたがる吹抜空間が計画されている(図2)。

延床面積: 約72,850㎡

階数: 地下3階 地上31階 塔屋1階

建物高さ: 約150m

■構造計画概要

図3に軸組図を示す。本建物の構造形式は制振構造(上級グレード相当)である。外部のスリムな格子状ファサードを実現しながらも、オフィス空間の面積を最大限確保するためにアウトフレームを採用し、内部構面にオイルダンパーおよび鋼材ダンパーを集約配置している。

長辺方向の見付面積が大きいことから、微小変形時にも減衰性能を発揮するオイルダンパーを採用し、風居住性に配慮している。また、セットバックする9階設備階には、柱軸力の受替え及び地震時の変形抑制を目的として、メガトラスを設けている。



図1 建物パース



図2 低層部の都市貢献スペース「(仮称) 淀屋橋広場」

基礎は場所打ち鋼管コンクリート拡底杭を採用し、負担軸力に応じて第一天満層または第二天満層で支持させる計画とした。

■制振部材の配置計画

図4に本建物の上層オフィス階における制振部材の配置箇所を示す。外周柱は3.2mピッチで林立しており、制振部材の配置可能箇所が内部構面に限定されるため、同一構面内に制振部材を2列に配置する計画としている。

■外周柱見付け幅500mmへの挑戦

本建物におけるデザイン上の特徴は、淀屋橋という土地柄の品格に相応しいスリムな格子状ファサードである。超高層建物を支える外周柱の見付け幅を小さくすることが求められ、低層部における柱の負担軸力が均等になるような架構計画とした(図5)。柱を3次元的に傾斜させるため、BIMを用いて詳細な納まり検討を実施している。

■低層吹抜部の長柱の設計

吹抜まわりの柱は長柱となるため、下記に示す3つの対策を実施している。

- ①長柱を含む主架構の地震時水平力負担を抑えるため、同一構面内に対して、2層にまたがるオイルダンパーを交互に配置した「ダブルレイヤー制振」を採用した。(図6)。
- ②時刻歴応答解析にはフル立体モデルを用いており、質点系では評価が困難なP-Δ効果などの影響を適切に考慮して断面設計を実施した。
- ③全体座屈解析(レベル1地震時を想定した弾性解析とレベル2地震時を想定し、ヒンジを考慮した弾塑性解析)を実施し、長柱となる柱の座屈長さを適切に評価した。

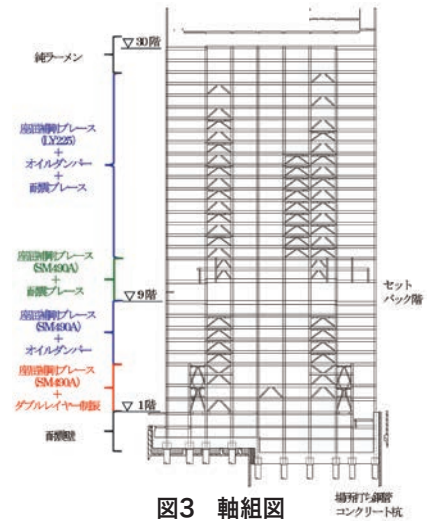


図3 軸組図

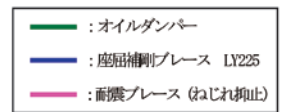


図4 上層オフィス階の制振部材配置

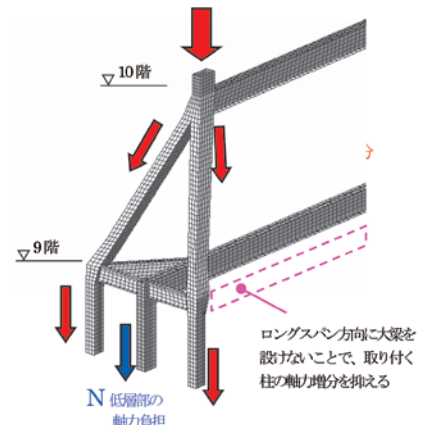


図5 低層部柱軸力を均等化する架構

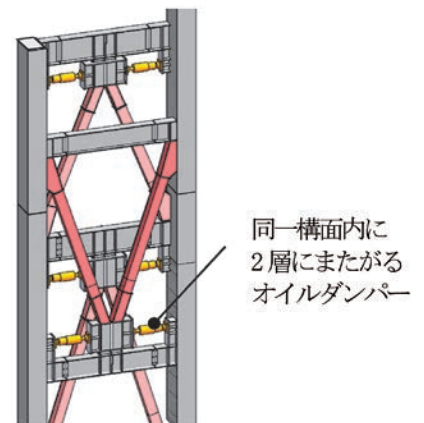


図6 ダブルレイヤー制振

第24回 若手技術者育成講座



事業委員
野村 建太

令和5年3月2日、大阪科学技術センターにて当講座が開催されました。

受講者は20代半ばから30代前半の構造技術者（計20名）で、設計事務所やゼネコンにおいて1年から8年の実務経験を積まれた方々でした。

講座内容は受講者を1チーム5名の4チームに分け、与えられた課題に対して計画コンセプトや伏・軸・代表断面等の構造計画をまとめ、最後にその成果をプレゼンテーションします。

演習課題はGL-10mを境に上部N値5程度の粘性土、下部N値30程度の砂層の土地に、延面積2,000㎡以下、「2階建て（多少のアレンジ可）の店舗」を建てるための建築・構造計画です。

日頃は建築主や意匠、設備設計者、現場施工者からの要望に沿うよう構造設計業務をしていると思いますが、本講座では初対面の構造技術者同士が自ら設計条件を設定し、敷地条件や企画を含め、白紙の状態からひとつの建物を4時間程度で計画します。



講座の初めにインストラクター側から演習課題の説明があり、各チームに分かれて議論を重ねます。昼食頃にはコンセプトや建築計画も大まかに決まりはじめ、断面設計や図面化等、成果物を役割分担しながら仕上げていきます。初めは戸惑いも見えましたが、一緒に作業を進めて行くうちに和気あいあいとした雰囲気になっていました。

成果物が完成した後は各班のプレゼンテーションが行われ、インストラクターも交えての意見交換が行われました。

4チーム中3チームが郊外、1チームが繁華街で敷地を魅力的に活用するための計画および設計に挑戦しましたが、どの作品も力作ぞろいでした。



受講された皆さまお疲れ様でした。日常業務では経験できない刺激的かつ濃密な時間となったのではないのでしょうか。本日の経験が日々の実務に役立つことを祈っております。

最後に、受講後に寄せられた感想文を各班の作品概要と合わせて紹介致します。紙面の都合で多分に割愛しております。ご容赦ください。

A班

自動車に魅せるS造2階建店舗

・北西の2つの道路に面する敷地で、東側には河川があり、自動車の搬入が行いやすく眺望の良い敷地。

・S造純ラーメン構造。べた基礎。自動車を展示するスロープ部分は、短柱を解消するために、大梁をピン接合で構成。

◆普段計画したことのない敷地や意匠などを考え店舗の内容を決定し、その荷重に合わせて構造種別や支持地盤を話し合い、計画することが楽しかったです。（事務所・6年）

◆課題についてだけでなく、同年代の仕事の苦労話などを聞くことができ、コロナでこういった交流ができる会がなかったので新鮮でした。

（ゼネコン・7年）

B班

YAJIRO-BE（飲食店、カフェ、食料品販売、雑貨販売）

・大阪府郊外の国道沿いの駅前の敷地で、南側には川に面した広場がある。

・2階建てS造、梁間方向は2スパンで中央の片持ち柱による”やじろべえ架構”を採用。地盤改良+べた基礎。

◆弊社と他設計事務所との設計の感覚の違いを知ることができました。

（事務所・4年）

C班

Boulder Living-1日楽しめるアウトドアショップ（カフェを併設）

・RC造耐震壁付きラーメン構造2階建て。地盤改良+独立基礎。

・郊外の小川沿いの敷地でカフェは景観を楽しめるように小川に面して配置。

・ボルダリング用の壁は建物の中央に設けて耐震壁としても利用。

◆もう少し、構造の議論に時間が使いたかったです。（事務所・5年）

◆各グループの成果発表では、構造計画や応答性状を考えながら若手主導の議論が展開されいい刺激になりました。

（ゼネコン・3年）

◆普段は意匠任せのプランニングまで構造設計者がこぞって考えることで、

「耐震壁の近くに階段を持つてきたくなる気持ちがわかった」など、新しい発見がありました。（ゼネコン・4年）

◆事務所に戻り計画した建物を一貫計算に入力してみても問題無いことを確認してみました。（事務所・5年）

◆改めて答えのない構造設計の面白さを感じました。このような同世代と関わられるイベントがあれば積極的に参加し、切磋琢磨できればと思いました。

（事務所・6年）

D班

まちに開かれ、市民を繋ぐ店舗広場

（カフェ、ジュエリーショップ、ブランドショップ）

・南北の大通りに面した人通りの多い繁華街の一角に計画。敷地中央に開放性のある広場は南北道路を繋ぐ役割も果たす。

・S造純ラーメン構造2階建て。地盤改良+独立基礎。2棟構成。渡り廊下で両棟の2階を行き来できる。

◆みなさんの培ってきた構造設計の知識を、社内とは違う環境で間近で見ることができたこと、世代が近いことから率直な意見を交わせたことも良き点だと思いました。（事務所・3年）

◆入社3年目ということでも不安もありましたが、少人数グループのため発言しやすく、分からないことを教えてもらいながら楽しく作業を進めることができました。（事務所・3年）

◆限られた時間と手計算という縛りの中で高いレベルでまとめあげられたプレゼンが多く自分の未熟さを感じました。（事務所・6年）

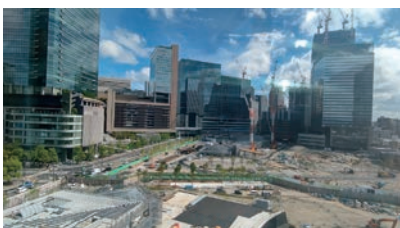
JSCA関西現場見学会
「うめきた2期-北街区賃貸棟」



株式会社S.S.S.DESIGN
山本 文昭

はじめに

2023年8月8日、猛烈な暑さの中、JSCA関西2023年度の第一回の現場見学会が広大な敷地で植音響くうめきた2期で行われました。



建築概要

規模
延床面積：約64,200㎡
階数：地上26階、地下3階
最高高さ：124.30m
構造：S造、RC造、SRC造
設計：竹中工務店+日建設計
施工：竹中工務店+大林組

計画概要

7つのキューブが重なり合った複雑な外観が特徴の複合用途の建物です。構造的にはそのうちの6棟が一体となり比較的規模な1棟はEXP.Jで分離した別棟となっています。主用途は、商業施設・ホテル・事務所となっています。ホテルは日本初進出するヒルトンのライフスタイルブランド「キャノピー by ヒルトン大阪梅田」になりますが、今回は見学することは残念ながら出来ませんでした。完成後に観にいきたいと思えます。（多分コスト的に宿泊はできない？）

構造概要

構造形式は、ラーメン構造+制震構造で、制震装置としてオイルダンパーと粘弾性ダンパーを使用しています。コンクリートは最大Fc90の高強度コン

クリートを採用しています。支持層は建物の規模によって第一天満層・第二天満層とし、超高層部は両方を支持層とする多段拡径杭としています。敷地全体に3mの盛土を行うために粘性土が圧密沈下するため、杭にネガティブフリクションを作用させないように、建物外周部にTSP壁杭を配置しています。構造解析は複雑な形状を正確に解析するためにフル立体解析による振れ挙動を考慮したものです。振れを抑制する為に多数の解析を行い最終的に外周廻りのラーメンフレームの剛性を上げる事で解決させました。地震動の主軸方向は、0・9.24・45・90・99.24・135度の計6軸としました。

耐震壁グレードはグランフロント1期と同じとし、上町断層の3A波を採用しました。風荷重も数値解析と風洞実験を行い結果に相互の違いがほぼ無い事を確認しました。粘弾性ダンパーは住友ゴム製の鉄板+ゴムで構成されています。設計上ばらつきが大きく苦労したそうです。鉄骨はノンブラケット工法とし、スカラップ部分を充填する事で靱性を確保しました。



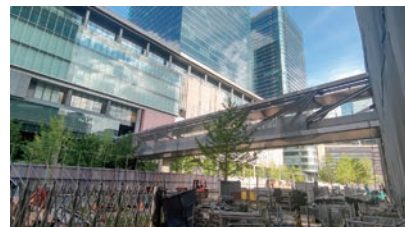
オイルダンパー



粘弾性ダンパー



柱梁接合部



グランフロントB棟間の50mの通路

謝辞

真夏の異常に暑い中、時間の許す限り施工中の現場を構造的に見応えのある箇所を限なく案内して頂き、本当に充実した見学会でした。見学後の質疑応答は勿論、案内された現場でも参加者からの活発な質疑に丁寧に回答頂き、竹中工務店様に御礼申し上げます。色々大変でしょうが、JSCA関西に今後もこの様な有意義な見学会を企画していただけると幸いです。





JSCA関西技術委員会
耐震設計分科会
RC分科会
「ニューフェローデッキ
工場見学会」
㈱イオリ建築設計事務所
平石 浩二

■はじめに

2023年5月19日(金)にJSCA関西技術委員会耐震設計分科会・RC分科会合同による、ニューフェローデッキの工場見学会が、七福鋼業株式会社 滋賀工場にて開催されました。

参加者は耐震設計分科会およびRC分科会併せて11名でした。

はじめに工場事務所において、七福鋼業株式会社滋賀工場長の長氏から工場の概要説明、工場長代理の政氏からニューフェローデッキの製品について説明を受け、そのあと工場を案内して頂きました。

工場では、ニューフェローデッキの製作過程などを興味深く見させて頂きました。

最後に再度、工場事務所に戻り、質疑応答が行われました。



■七福鋼業株式会社の会社概要

大阪市西淀川区の本社、全国4工場(滋賀、神奈川、埼玉、茨城)、生産委託工場(大鐵日吉原工場)から成っています。

ニューフェローデッキの設計、販売は、関連会社の株式会社富士昭サンマテックが行っています。

今回見学をさせて頂く、滋賀工場は24時間の生産体制であり、工場の概要は以下となります。

[工場規模]

敷地面積 : 19223㎡
第1工場 : 6675㎡
第2工場 : 1328㎡
第3工場 : 419㎡

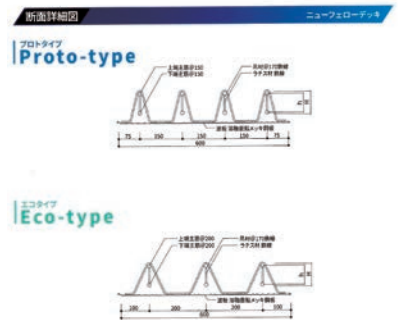
テントヤード : 1300㎡
管理棟 : 7393㎡
[生産設備概要]
組立ライン(エコ-プロト兼用) : 2ライン
鉄筋切断機 : 2台
フォーミング機 : 2台
ラチス成型機 : 3台
吊材成型機 : 6台
トラス溶接機 : 4台
端部材製作機 : 4台

■ニューフェローデッキの製品説明

ニューフェローデッキ

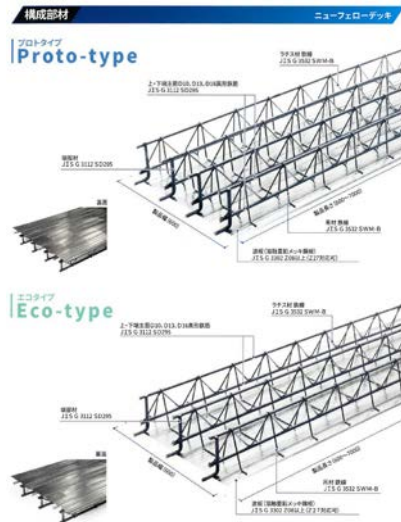
ニューフェローデッキの特長

- ① 工場の特殊な用途・用途設計・スタッド設計・現場施工を考慮しての全プロセスについて、(一)財団法人建築試験協会(IBC)性能証明第22-12号の耐震性能証明を取得しました。
- ② スラブを支持する構架材として、S造・RC造・SRC造・PC造が可能なものです。
- ③ 支持条件が単純支持・連続支持・固定支持・はね出しのスラブに適用します。
- ④ スラブ厚は120mm以上のスラブに適用します。
- ⑤ 保形耐力としては実験結果及び数値解析を行った数値を用います。
- ⑥ スラブ設計は、原則として建築技術情報誌等で定められた方法によるものとし(3P→2P参照)、上端部材部は断面算定による数値かつコンクリート全断面(応力)以上とし、下端部材部は本工場の特性を考慮し取り合いの割合を基本とします。その他は許容ひび割れレベル以下に定めます。
- ⑦ トラス下端主筋の応への定数は不要です。
- ⑧ スラブ部負荷がモーメントに対しては、仕上・機械層間による応力にて設計します。(中継サポート無しの場合)
- ⑨ スラブ開口部については、断面・寸法・材料の特性を考慮して標準仕様を決定しました。
- ⑩ 工場スラブ部材の改良及び改良を毎日実施しています。



ニューフェローデッキの製品について以下の項目について説明を受けました。

- ・ 製作要領書の説明
- ・ 製作基準書の説明
- ・ チェックリストの説明
- ・ 搬送荷姿マニュアルの説明
- ・ 工場ラインのビデオ
- ・ 製品説明



■工場の様子



■質疑応答

- ・ トレーサビリティシステムにより追跡した事例はありますか。
→問題の発生もなく、今のところ追跡した事例はありません。
- ・ 溶接は全て機械ですか。
→はい、溶接は全て機械となります。
- ・ 開口部対応も工場にて行っていますか。
→開口部については、現場対応となります。
- ・ 鉄板部を波形加工しているのは剛性確保が目的ですか。
→剛性確保ではありません。吊り材の溶接のためです。
- ・ 標準シリーズ以外のオーダーメイドは可能ですか。
→カタログ上にはない製品につきましてはご相談ください。
- ・ 配筋筋上端筋はなくすることは可能ですか。
→ひび割れに対する配慮、および、スラブ筋0.2%確保より、配筋筋上端筋は必要となります。
- ・ 新商品の発表予定はありますか。
→現在、研究開発中です。

■謝辞

今回の工場見学会に際し、案内、説明頂いた株式会社富士昭サンマテック、および、七福鋼業株式会社の関係者の皆様に深くお礼を申し上げます。

■会員紹介



氏名 嶋岡 実希恵
勤務先 株式会社住まい工房 集
趣味 茶道

木造住宅の新築、改装、耐震診断・構造計算・補強工事に携わっております。

2007年木造住宅の一般耐震による診断・構造計算・補強工事を開始し、2014年に伝統的軸組工法の限界耐力計算による耐震診断、構造計算をした事をきっかけにJSCAに入会させていただきました。

木造住宅での限界耐力計算も少しずつ認知が広まり、需要が増えてきているように感じております。

古き良き建物を後世に残せる仕事であるとやりがいを感じております。

JSCA関西支部の木構造分科会に所属し、会員が手がけた設計施工事例の成果を相互に報告、発表し問題点など知識の向上に努めております。

まだまだ未熟ではございますが、今後共ご指導、ご鞭撻のほど宜しくお願い致します。



氏名 山崎 敦
勤務先 共英製鋼株式会社
趣味 スポーツ観戦

大学で建築を学んだ後、鉄筋を作るメーカーに就職し20年勤めています。幸いにも、製品開発等を通じ、建築構造技術に関わる仕事に携わってきました。構造技術の世界の片隅で仕事をするなか、構造設計実務の経験もないので、日々、知識や経験の不足を感じてきました。

この度、大阪への転勤をきっかけに、思い切ってJSCAに入会し、RC分科会に参加しています。分科会での意見交換を拝聴していると、草野球のおじさんがメジャーリーグの試合に放り込まれたような感覚に陥り、一瞬、入会を後悔しましたが、最先端の設計者の考えに触れたり、自身の技術力の程度を認識できたりと、良い刺激を受けます。今後もJSCAの活動へ積極的に参加し、自己研鑽に努めます。ご指導ご鞭撻のほど宜しくお願い致します。

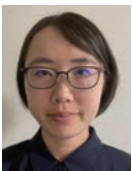


氏名 田井 和博
勤務先 株式会社織本構造設計
大阪支所
趣味 バスケットボール

2009年に入社し、構造設計に携わって今年で15年目になります。これまで学校、病院、スタジアム、超高層建物等、多種多様な設計をしまいいりました。構造設計の奥深さ、難しさを日々感じながらもプロジェクトが終了した時や、建物が竣工した時には非常に大きな達成感を感じております。一方で建築社会への責任も感じているところであり、昨今話題の環境性についても今後の設計にどう活かせるのか考えているところであります。

JSCAへは自分自身の技術向上と先輩方との交流を目的に入会しました。今後もJSCAの活動には積極的に参加していきたいと思っております。

構造設計者としては、まだまだ未熟者ではございますが、今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。



氏名 尻無濱 千尋
勤務先 (一財)日本建築総合試験所
趣味 音楽・ミュージカル鑑賞

2016年に入所し、これまで構造計算適合性判定や、超高層建築物等の性能評価に携わってきました。JSCAには木造分科会への参加をきっかけに入会させていただきました。

構造設計実務には携わったことがない分、知識や経験の不足を痛感する日々です。それゆえ分科会では年齢も経験も様々な方々と交流でき、それが私にとってとても貴重な機会となっています。

まだまだ勉強不足ではありますが、今後も経験豊富な方々から得られた知識をたくさん吸収し、構造の審査・評価に携わる者として微力ながら貢献したいと思っております。未熟者ですが、今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。



氏名 藤井 嵩広
勤務先 株式会社竹中工務店
趣味 育児 筋トレ

2013年に入社し、作業所勤務や構造設計システム開発を経て、構造設計7年目になります。JSCAには構造デザイン発表会での発表をきっかけに入会させていただきました。

これまで様々な面から建築を経験させて頂きましたが、経験を積むほどに建築の奥深さや自身の知識不足・経験不足を痛感しています。構造設計においては、特に多くのことを学び、同時に仕事のやりがいと責任の大きさを感じています。

JSCAでの活動を通じて、構造設計者としての見識や技術力を磨いていければと思っております。たくさんの方に喜んでいただける建築を作り上げていくことができると精進していきます。

今後とも、ご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い致します。



氏名 豊島 裕樹
勤務先 大成建設株式会社
関西支店設計部
趣味 野球・写真・合唱

構造設計に携わり14年になりました。この間に設計した建物は用途も規模も多岐にわたりますが、どの建物も長く使われるものになって欲しいと考えて設計に取り組んできました。

学生時代からJSCAの講演会やPDに参加する機会があり、諸先輩方の構造設計に対する取り組み姿勢や構造設計が果たす社会的な使命感を感じてきました。その中で、どうしたら建物が長く使われるのか(損傷が少ない構造になるか、社会から必要とされる建物になるか)といった議論に刺激を受けたのだと考えています。

今後もJSCAの活動を通じて得られた知見や交流機会を活かして、より良い建物を設計していけたらと考えています。まだまだ未熟ではございますが、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。

●事務局だより

1.支部総会

開催なし

2.支部幹事会

開催なし

3.運営会議

0727(18:00~20:00)

Zoom会議併用

場所:柴田東急ビル4階

JSCA関西事務局

0824予定(18:00~20:00)

Zoom会議併用

場所:柴田東急ビル4階

JSCA関西事務局

0928予定(18:00~20:00)

Zoom会議併用

場所:柴田東急ビル4階

JSCA関西事務局

4.事業委員会

0710(18:00~18:50)

Zoom会議併用

場所:柴田東急ビル4階

JSCA関西事務局

内容:現場見学会、研修会企画について

0807予定(18:00~19:00)

Zoom会議併用

場所:柴田東急ビル4階

JSCA関西事務局

内容:現場見学会、研修会企画について

0911予定(18:00~19:00)

Zoom会議併用

場所:柴田東急ビル4階

JSCA関西事務局

内容:現場見学会、研修会企画、新年研究会について

5.技術委員会

0828(予定18:00~20:00)

Zoom会議併用

場所:柴田東急ビル4階

JSCA関西事務局

内容:各分科会活動報告・本部技術委員会の報告

6.広報委員会

0920(18:00~19:00)

Zoom会議併用

場所:鴻池組会議室

内容:1.Structure Kansai NO.160号編集会議

2.Structure Kansai NO.161号

企画会議

7.耐震診断・補強判定委員会関西部会

0718 第116回(18:00~19:00)

場所:柴田東急ビル4階

JSCA関西事務局

内容:耐震診断・補強計画判定の報告

0823 第117回(18:00~19:00)

予定

場所:柴田東急ビル4階

JSCA関西事務局

内容:耐震診断・補強計画判定の報告

0919 第118回(18:00~20:00)

予定

場所:柴田東急ビル4階

JSCA関西事務局

内容:耐震診断・補強計画判定の報告

8.木造住宅レビュー委員会

開催なし

9.構造レビュー委員会

開催なし

10.大震研委員会

今年度は休会

11.研究会・記念事業

開催なし

12.現場見学会

0808予定「うめきた2期-北街区賃貸棟」

13.支部報

Structure Kansai No.158(2023.07)

発行

14.技術委員会各分科会

○地盤系分科会

0719(18:00~19:30)

場所:大林組会議室+Teams会議併用

内容:杭の耐震診断について、SDGs既存地下構造再利用について

○RC分科会

0823(18:00~20:00)

場所:能勢建築構造研究所会議室

内容:高強度鉄筋について

中・高層木造建築物における新構法

○金属系分科会

0928(15:00~17:30) 予定

場所:竹中工務店作業所

内容:神戸須磨シーワールド作業視察

○情報システム分科会

0907(18:00~) 予定

場所:未定

内容:未定

○構造計画分科会

0821(18:00~19:30)

場所:竹中工務店B1階1号会議室

内容:設計事例紹介「3層の校舎を空中に持ち上げたピロティ建築」

○耐震設計分科会

0808(15:00~17:00)

場所:兵庫県某作業所

内容:現場見学会

○PC・工業化分科会

開催なし

○木構造分科会

0720(18:00~20:00)

場所:SERB会議室

内容:勉強会「限界耐力計算演習(京町家)」

0830(予定18:00~)

場所:SERB会議室

内容:勉強会「限界耐力計算演習(京町家)」

○法制分科会

0731(18:00~19:00)

場所:竹中工務店B1階1号会議室 リモート併用開催

内容:オランダにおける歴史的建築物の保存再生(STRUCTURE)ほかについて意見交換

※下線付きは拡大分科会を示す。

15.サテライト活動

・奈良会 開催なし

・京滋会 開催なし

・兵庫会 開催なし

16.講習会

開催なし

17.親睦会

開催なし

18.関連団体との交流

開催なし

●編集後記

お忙しい中、原稿執筆にご協力頂いた方々に、心より厚く御礼申し上げます。

今年の3月にJR大阪駅に地下乗り場が開業しました。大阪の移動手段がより便利になりました。今回紹介させて頂きました「イノゲート大阪」やうめきた2期の建物が姿を現しはじめ、大阪キタエリアが大きく様変わりしてきたと感じます。2025年には万博も控えています。変わっていく大阪をこれからも本誌で取り上げていきたいと思っております。

(平石、橋本)

発行 (一社)日本建築構造技術者協会

関西支部事務局

(下記に移転致しました)

〒550-0005

大阪市西区西本町1-7-8 柴田東急ビル402

Tel 06-4394-8433 Fax 06-4394-7566

Mail jscaweb@kansai.email.ne.jp

URL <http://jscakansai.com/>



JSCA関西支部 新事務所移転のお知らせ

JSCA関西支部は、これまで大阪市西区京町堀にある安田ビルに事務所を構えていました。安田ビルは「大大阪時代」と呼ばれた頃の1936年に建てられた地上3階建てのRC造建物、正面外壁には黄褐色のタイル貼り、2階及び3階部分には古代ギリシア風の飾り柱からなる重厚でクラシカルな印象を醸し出す建物でした。

慣れ親しんだ事務所でしたが、セキュリティ・WEB環境向上のため、2023年3月に安田ビルから南へ約500mの位置にある「柴田東急ビル」に移転しました。大阪メトロ本町駅（四つ橋線、中央線、御堂筋線）の最寄り出口から徒歩1分ととても便利な場所です。

20名程度が打合せのできるスペースもありますので、分科会などの打合せに是非ご利用下さい。ビル周辺には美味しい飲食店が多数ありますので、打合せ後の懇親会も楽しいですよ。

— 新事務所ビル —

住 所 〒550-0005 大阪市西区西本町1-7-8 柴田東急ビル402号

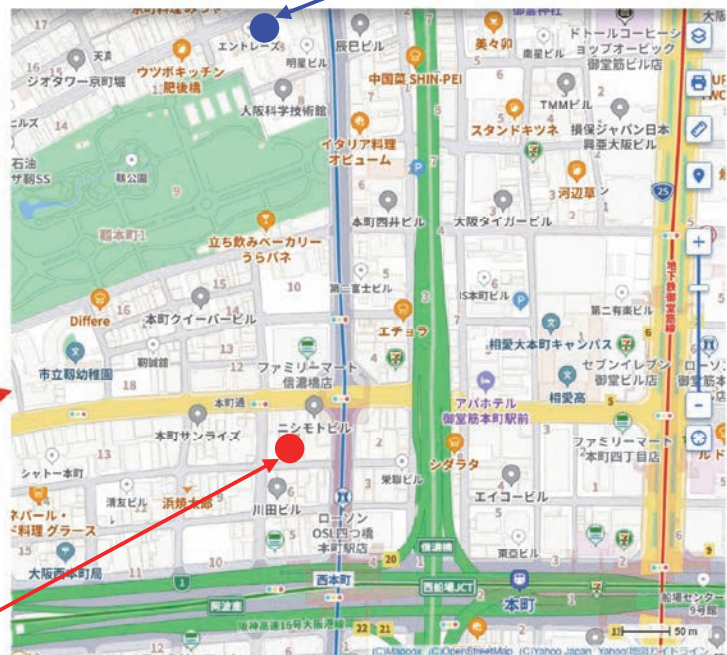
電 話 06-4394-8433 / F A X 06-4394-7566

E-mail iscaweb@kansai.email.ne.jp

URL <http://jscakansai.com/>



前事務所



新事務所